
高校生活と探し物

撫子 雪姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

高校生活と探し物

【ISBN】

N8746N

【作者名】

撫子 雪姫

【あらすじ】

あああ高校（仮）で生活して、探し物を見つける天神どくろのお話

入学試験と拷問（前書き）

初めてですので、お手柔らかにお願いします。

入学試験と拷問

「、ここが俺の受験の高校、あああ高校（仮）かあ・・・
ん？（仮）って…まだ名前が決まってないのかな？
そしたら適当すぎるだろ・・・

先生に勧められて入ったんだけど、どういづ高校なのか、謎だ。
ネットで調べても、都市伝説ばかりだし・・・
都市伝説によると、頭や運動神経がかなりいい人たちが集められる
とか・・・
この先不安だ。

俺はその不安を振り払つて、試験会場へ向かつた。

試験会場に入ると、重苦しい雰囲気が俺を襲つた。
プレッシャーといふか、なんといふか、とにかく空気が張り詰めて
いるのだ。
ここから早く逃げ出したいくらいの空気が僕の具合を悪くする。
・・・腹が痛い。
うわ、最悪。こんなときに・・・
と・・・トイレに行こう！今ならまだ間に合つ・・・・・・
る！――

ジャ――

「ふう・・・今何つつ・・・やっぱ・・・10秒前だし・・・」

この時計は正確なのかどうか知らないが、完全に遅れる！――

僕は全力で走った。

ガラツツ

「セ・・・・セーフ？・・・なの・・・・・か？」
しーーーん

うう・・・アウトか？

「早く席に着け、天神どくろくアマガミ ドクロ^」

セーフ？ セーフなのか？

まあいいか。 とにかく座るつ。

「私は担当の希咲遙くキサキ ハルカ^だ。」

おお、よく見たら超美人。

「では、今から筆記試験を開始する。へタな真似をしたら即失格だ。
いいな？」

プリントが配られる。

「開始つ！」

バツ

おお！？なんだこれ！？超難しいじゃねえか！－普通なら絶対に解
けねえぞ！－

－だが俺は普通ではない！天才秀才天神どくろ様だ！－

筆記試験が終わるころには、俺はゲッソリになっていた。

「な・・・なんなんだあの問題は・・・拷問並みに難しいぞ・・・」

「おい！まだバテるなハゲ！！次はもっとときついのがあるんだぞ」

・・・え？

「ふん、聞いて驚け。いや、これを聞いて驚かない者はいない。いや、す」しはいるかもしかんが・・・」

な、なんだ？

「体力試験だ！！」

「へえ――・・・・・ふえ？」た、体力試験だと？そんなの聞いてねえよつ――

「ふふふ、私には見えるぞ。貴様らのバテる姿が。」

いやいやいやいやまじで無いわーまじありえねえしーマジ聞いてねえしー

「さあ、移動するぞ。体育館に

続く

入学試験と拷問（後書き）

かなり読みずらい」と思いましたし、ヘタクソだと思います。
最後まで読んで下さった方、ありがとうございます。

入学試験といきなり2（前書き）

書かねば書かないと思って2話題です。

入学試験とト拷問_2

た・・・体力試験だと!?

も、もちろんやつてやるさー!母ちゃんに約束したからな!
長い廊下を歩いて2分。ようやく体育館についた。

「よく聞け。今から3人一組のパーティーを作つてもいい。好きな相手でも何でもいい。」

え。よく見たら知ってる人いませんけど。これ俺残るパターンじゃね?

「ん、じゃあもう組んでいいぞ。必ず3人一組な。確実に余らないからな。制限時間10分。」

や、やつてやるぜー!余らないんだからな!

たぶんこれは積極性とかいろいろ見られると思つぞー.俺的に。

まあまずは、なんかみんなに話しかけられなくてモジモジしている女の子に限る!!なんかかわいいし

と思つたらさつそく発見!!ポニー テールの茶髪の女の子ーかわいいー! ものすゞー!

あの子すげー モジモジしててるが。

とりあえず話しかけてみるか。

「あ、あのー俺と一緒に組みませんか? あ、無理ならいいんだけど・

・」

「えー? 嘘! 本当ですか! ? ありがとうございます! ! 誰にも話しかけられなくて、もう無理かと思いました(ニヤッ)」

か、かわええ／＼／＼／＼

「名前、なんていうんですか？あつ私、春色咲楽^{クハルイロ} サク
ラ ハツ ていいます」

「俺は、天神^{ヂムニ}」

すゞしく魅力的な名前だ。咲楽ちゃんの雰囲気にそっくりだ。

「私、同じ学校の人連れてきますので、少し待っててください」

咲楽ちゃんは大きく息を吸うと、精いっぱいの声で、

「巻くう――――――ん――!」

4秒後

「なんだ？」

「さつすが巻君！早いね！俊足だね！」

お、黒髪セミロングのナイスガイだ。

「じくろくくー！紹介するね。巻蓮^{クマキ} レン^ハ君ーおひななじみ
だよつ」

いつのまにか咲楽ちゃんがタメ語になつてゐる—すげー嬉しいんですね
けどーー

「あのね、巻君、一緒に組んでくれるよね？」
「あ、あたりまえだ。」

「こつ、咲楽ちゃんの可愛わー一撃でやられたな

「よろしくなつ！蓮つ 僕の名前は、「天神どくろだる。」

う、あの腹痛事件（？）で一気に目立つてしまつたか。

「あ、言い忘れてしまつていたが、パーティーが組めた次第、あそこの受付で登録してもらひえ。」

おいおいおいおい、言い忘れるなよな。試験管だら。一応。

「せ、パーティーも組めたところだし、さっそく登録しに行くか。
「いえつさあー！」

おい待て、なぜ貴様が仕切つている。ま、いいけどな。

「やうだなつ。せ、行こうぜー。」

「よし、これで全員組めたな。ドアを開けたらアスレチック的なものが待つてゐる。ゴールまでパーティー全員でたどり着くんだ。いいな？」

よーし、気合入れいいぐぜえーーーー！

続く

入学試験といと拷問2（後書き）

最後まで読んで下さった方、ありがとうございます。
一瞬でも読んで下さった方もありがとうございます。

入学試験と拷問3（前書き）

3話目です。
よろしくおねがいします。

入学試験と拷問③

ガチャ

体育館の扉が開かれた。

・・・・・広っつつ！

どれくらい広いかといふと「おおおおおおおおく広い！」

その体育館の中にはかなり大きいアスレチック的なものがあった。
それもまた、ゴールが見えないほどの大さだ。
たぶんトラップなどといふ仕掛けもあるのだろう。

「ゴール、できるかなあ？」

「大丈夫じゃね？何とか」

頑張れば何とかなる！！たぶん・・・

「お前、頑張れば何とかなる！・・・とか考えてないよな？」
「う・・・計画的に頑張ればいいと思います。」

何だこいつ！読心術でも使えるのか！？

「では、行くぞ！フライングはなしだからな。」

OK！－遥先生。

「よおーい・・・・ドン！」

遥先生の掛け声により、いつせいに全員が走り出した。

「チームワークを乱すなよ。ホールの為にな（ニヤニ）」

「くわー超あつつい！…」

ずっと上のばっかしで、超疲れるんですけど…

「疲れるね（ニヤニ）」

咲楽ちゃん、全然疲れていないように見えませんけど?
おまけに蓮なんかは顔色一つ変えやしない。

くわつ腹立つ！

「うおおおおおおおおおおおおおおお…！」

「おこ…こきなりペースを上げるなバカ…はぐれたらひづくなるつ
もりだ！」

「なつなんだよ…いいじゃねーかよ」

「ど…がいいのかさっぱりわからないなバカ…」

「なつバカバカ言つなよ…！頑張ってるじゃねーか俺が！全身全靈

「...」

「お前の頑張りは空回りしてんだよ。」

今にも顔がくつむかへうなぐらこ顔を近くにして言ふ争つてゐる。

「巻册もどく君も仲良しだね！」

グリンシと联楽に顔を向けて、

「「ジ」をびう見たら仲良しに見えるんだよ。」「

やべえハモつた。

息ぴつたりじやん。

「チツ オラ、さつあと行くべ。」

「わかつてゐつつーの。」

俺は反抗期の息子かよ！！

もつ向としても合格して蓮を見返してゐる。

俺が決意を決めた時だつた。

とんつとんつとんつ

木の柱を軽い足取りで跳ぶよつと進むパーティーがいた。

「なんだありや、すゞあざるだ。」

「すゞいね。ねつ巻册。」

「やつだな。」

短髪の赤いマフラーをした男は、首元に狐の入れ墨あって、三つ編みの女は腕に蛇の入れ墨、黒髪のボニー・テールの男か女かわからぬ奴は、背中に般若の入れ墨があった。

不良か？入れ墨とか・・・
まあ、すごいことに変わりはない。

「あ、思い出した。さつきの入れ墨があつたパーティーのこと。
「有名なのか？」
「ん、まあな。」

正直、なんとなくだがあいつらは危険な感じがした。

「あいつらの中学校は、超エリート、天明中学校といつてな、エスカレーター式のところだ。」

「へえーやっぱ雰囲気が全然違つたよねー。なんか怖かつた！」

咲楽ちゃんも感じたのか。

なんか超エリートって感じ。嫌味な奴らだ。

まあ俺も成績は良かつたからな。足元にも及ばないことはない。

「でだな、入れ墨があるやつらは特に成績がよかつたやつなんだ。ほとんどの高校から推薦がきてるはずだ。」

な、すげー————!!!!
つてこの高校そんなにすごい高校だつたんだ————!!

この先、ちゃんと生きて生きていけるか心配になつた。

続く

入学試験と拷問3（後書き）

半端な終わり方ですみません…
読んで下さった方、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8746z/>

高校生活と探し物

2011年12月27日19時48分発行